

ハーフトィラー HC55

ご使用前に必ずこの取扱説明書を最後までよくお読みください。
また、いつでも取り出して読めるよう大切にお手元に保管してください。

Herb



もくじ

1.はじめに	1
2.安全上のご注意	2
3.警告マーク	5
4.サービスと保証について	6
5.各部の名称と使用準備	7
6.仕様とアタッチメント	9
7.始動と停止のしかた	10
8.運転操作のしかた	12
9.点検と整備	13
10.保管と運搬	19
11.アタッチメント(別売品)の使用手法	20
12.故障かな?と思ったら	21
13.アタッチメントと補用部品	24

※改良のため、お断りなく製品仕様が変更することがあります。

〒834-0195 福岡県八女郡広川町日吉 548-22

株式会社 オーレック

TEL.0943-32-5057(代表) FAX.0943-32-3518(代表)

1. はじめに

この度は、オーレック ハーブティラーHC55をお買いあげいただき、ありがとうございます。

本製品を常に最良の状態に保ち、安全な作業をしていただくために、この取扱説明書を最後までよくお読みいただき、安全な運転作業と正しい取扱い方法を十分理解し、安全で能率的な作業にお役立てください。

■安全に関する表示について

本書では、作業員や他の人が障害を負ったりする可能性のある事柄を下記の表示を使って記載し、その危険性や回避方法を説明しています。これらは安全上特に重要な項目です。必ずお読みいただき指示に従ってください。

⚠ 危険

指示に従わないと、死亡または重傷を負うことになるもの

⚠ 警告

指示に従わないと、死亡または重傷を負う可能性があるもの

⚠ 注意

指示に従わないと、けがを負う可能性があるもの

■その他の指示

参考：

操作、保守についてのコツ、誤りやすいミスに関するもの

■取扱説明書について

- 本機を使用する前にはこの取扱説明書をよくお読みください。
- 作業をするときには必ず携帯してください。
- 本機を貸与または譲渡される場合は、必ず本機と一緒にお渡しください。
- 紛失または破損したときは、直接メーカーへご注文ください。

*仕様変更等により、イラスト、内容が一部本機と異なる場合があります。

*品質保証書は記載事項をよくお読みの上、必ずお買い上げ日及び販売店名が押印されていることをご確認の上、大切に保管してください。

2. 安全上のご注意

■あなたと他の人の安全を守るために次の指示に従ってください。

⚠ 警告

ご使用前は…

- 1.可能な限り、作業場を清掃してください。
 - ・小石、ガラス、釘、針金、ひも等の異物を圃場より取り除いてください。
- 2.周囲の状況を確認してください。
 - ・強風、雨のとき、及び夜間は使用しないでください。
 - ・換気の悪い場所や建物の中では使用しないでください。
- 3.次のような人、または状況下では使用しないでください。
 - ・妊娠中の人、飲酒した人、過労、病気、薬物の影響で正常な運転ができない人は使用しないでください。
 - ・機械の知識のない人や他人の機械を借りて作業をするときは、予め安全作業の指導を受けてから使用してください。
- 4.きちんとした服装で作業をしてください。
 - ・裸足やつま先が空いている靴やサンダルで操作をしたり、だぶついた服や巻きタオル、腰タオル等は動いている部品に引っかかる等、思わぬ事故を起こす場合があります。
- 5.各部を点検してください。
 - ・保護カバーやその他の部品に損傷がないか十分点検し、正常に作動するか、また所定の機能を発揮するか確認してください。
 - ・カバーやラベル類、その他の部品を取り外したまま使用しないでください。
 - ・点検作業は、通行の妨害にならないような場所及び平坦で安全な場所で行ってください。
- 6.純正部品を使用してください。
 - ・本機の改造は絶対にしないでください。また、指定部品以外は使用しないでください。
- 7.本機をつり上げて点検する場合は、必ず落下防止を行ってください。

2. 安全上のご注意

▲ 警告

ご使用中は…

8. 圃場に人やペットを近づけないでください。特に子供には注意してください。子供が圃場に入ったときには作業を中断し、エンジンスイッチを切ってください。思わぬ事故を引き起こす恐れがあります。
9. 無理な姿勢で作業しないでください。
 - ・ 急傾斜地では作業しないでください。傾斜角度が大きくなるほど危険です。
 - ・ 緩斜面での作業は、上下方向よりも横方向(等高線方向)に行うようにしてください。上下方向の作業は、本機が滑り落ちてきたり、作業者の足が滑って本機に巻き込まれたりする恐れがあります。
 - ・ 緩斜面での旋回は転倒事故の恐れがあります。速度を十分に落とし、周囲に注意して行って下さい。
 - ・ 緩斜面では必要以上に速度を上げないでください。速度が速すぎるとバランスを崩しやすく転倒してけがをする恐れがあります。
 - ・ 圃場への出入り、溝又は畝の横断、軟弱地の通過等は、エンジン回転を下げ、圃場の状況を十分に把握し、廻りに注意して行ってください。
 - ・ 作業中、異常を感じたら必ずエンジンを停止し、点検を行ってください。
 - ・ 休憩等で本機を離れる場合には、エンジンを止め、安定した場所で確実に固定させてください。
 - ・ エンジンがかかっているときは、絶対に手や足を耕うん爪に近づけないでください。
 - ・ 作業中、ローターを点検するときは、必ずエンジンを停止し、また手を保護するために厚手の手袋をしてください。
 - ・ 移動の移動、本機を持ち上げる時には必ずエンジンを停止してください。不意にロータリが回転し、思わぬ事故につながる恐れがあります。
10. 標準で装備される“らくらくアンカー”は取り外さないでください。
 - ・ “らくらくアンカー”を取り外すと、操作性が悪くなるばかりでなく、本機故障の原因にもなります。(P.5 参照)

2. 安全上のご注意

▲ 警告

ガソリンについて…

11. 燃料を補給するときや燃料タンクの付近ではタバコを吸ったり炎や火花等の火気を近づけないでください。
12. 燃料はこぼさないように注意し、所定のレベルまで補給してください。燃料キャップを確実に締め、もし燃料がこぼれた場合は、きれいにふき取り、よく乾かした後、エンジンを始動してください。ふき取った布きれ等は、火災と環境に十分注意して処分してください。
13. 排気ガスには有害な一酸化炭素が含まれています。屋内や囲いのある場所で作業を行う場合には、排気ガスが蓄積されないように適切な換気を行って下さい。

ご使用後は…

14. 次の作業のため、本機の点検、整備を行ってください。
15. オプション品の取り外しは、平坦で安全な場所で行ってください。
16. 長期間の保管は、燃料タンク、キャブレタ内の燃料を抜いてください。又、各部は十分に清掃し、可動部分にはオイルを注油してください。
17. 作業中はもとよりエンジン停止直後は、やけど防止のため、マフラやエンジン本体に触れないようにしてください。
18. 本機にカバーを掛ける場合は、エンジンが十分に冷えてからにしてください。火災の恐れがあります。

積み降ろし及び運搬は…

19. 荷台、トランクから本機がはみ出さない車を使用してください。
20. 積み降ろしは平坦な場所で行ってくだ下さい。
21. 積載する車は、エンジンを止めサイドブレーキを引いてパーキング状態にして、確実に動かないようにしてください。
22. 運搬時、燃料コックは「OFF」位置でエンジンは必ず停止してください。
23. 運搬時は本機を荷台上で動かないように丈夫なロープ等で確実に固定してください。

3. 警告マーク

本機を安全に使用していただくために、本機には警告マークが貼付されています。警告マーク記載事項を全て読み理解して必ず守ってください。

マークが見えにくくなった場合には、新しいマークに張り替えてください。

又、警告マークが貼付されている部品を交換する場合にもマークは必ず貼付してください。（警告マークは、お買い上げの販売店又は弊社へご注文ください。）

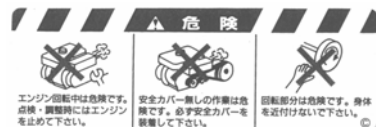


注文コード No. 83-0001-906-00

注油栓



らくらくアンカー



注文コード No.83-1515-907-00

4. サービスと保証について

お買いあげいただきました製品は、当社“品質保証規定”に基づき、お買い上げいただいた日より6ヶ月間の**保証期間**となります。

正常な使用にも拘わらず本機に不具合が発生した場合には、製品添付の“品質保証書”とともに販売店に申し付けください。

注）本機の改造や仕様の限度を超える使用は、無償修理の対象外となりますのでご注意ください。

ご使用中の故障やご不明な点又はサービスに関するご用命は、お買い上げいただいた販売店までお申し付けください。

※“品質保証書”は無償修理申請、修理・整備依頼時に必要です。大切に保管ください。

種別 Description	ハーブティラー
型式名 Model	HC55
製造番号 Serial No.	MP00000000
発売元	(株)オーレック
株式会社 OREC CO., LTD.	MADE IN JAPAN FABRIQUE AU JAPON



5. 各部の名称と使用準備

■梱包内容

箱を開いたら、まず以下の物が揃っているか確認してください。



■燃料・給油

- ・燃料は無鉛ガソリンを給油してください。
- ・燃料の給油はエンジンを停止し、エンジン本体が冷えてから行って下さい。
- ・給油中は火気厳禁です。
- ・購入後、2~3ヶ月以上経過した古いガソリンは、エンジン不調の原因となります。

■スロットルレバー

- ・レバーがスムーズに引っかかりなく作動するか確認してください。

■エンジンスイッチ

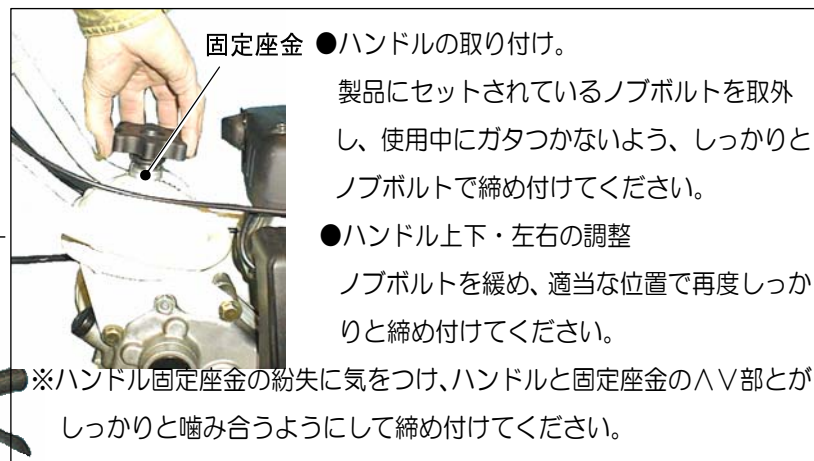
- ・エンジンスイッチを作動させ、引っかかりがないか確認してください。

■ローター

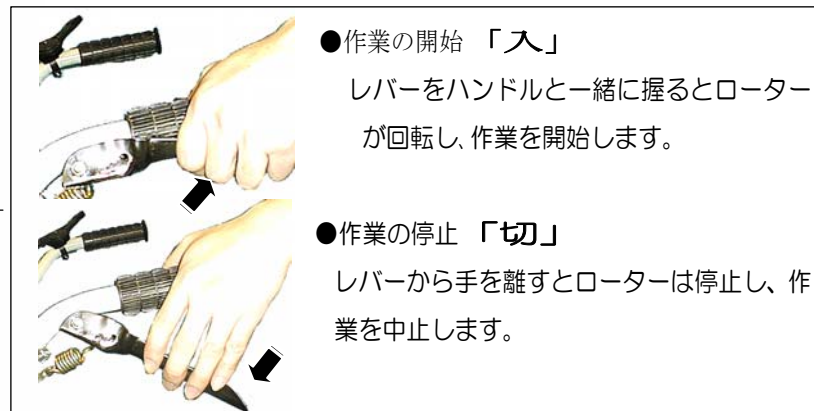
- ・使用前にローターが正しく取り付けられているか確認してください。
- ・ローターの点検・整備はP.13~14をお読みください。

5. 各部の名称と使用準備

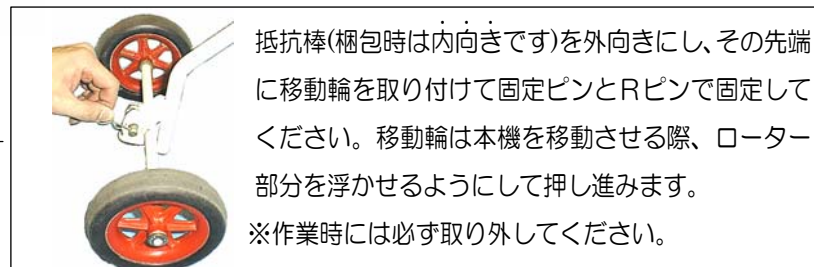
■ハンドル ※作業中ハンドルが「たつかない」ようにしっかりと締めてください。



■主クラッチレバー



■移動輪の取付



6. 仕様とアタッチメント(別売品)

■仕様 (参考数値)

型 式		HC55
寸 法	長さ×幅×高さ(mm)	1,130×560×930
重 量	乾燥(kg)	32
エンジン (空冷4サイクル 単気筒 OHV)	形 式	三菱 GM82PN-354
	排 気 量(cc)	80
	最大出力(Ps/rpm)	2.4/4,000
	エンジンOIL(L)	0.4 (#30)
	点火方式	トランジスタマグ ネット点火
	点火プラグ	NGK : BP6HS, チョウボ : L66Y N D : W20FP
	始動方式	リコイルスタータ
	クラッチ	デッドマンベルトテンション式
本 体	無鉛ガソリン(L)	1.6
	ハンドル調整	上下・左右ノブボルト固定式
	ミッションOIL(L)	1.0
	ベルト(本)	LA35×1
	ローター回転数(rpm)	110
	耕うん爪 (本)	L×8, R×8(オリジナルフレンチ爪)
	耕うん幅 (mm)	550,300(分割式)

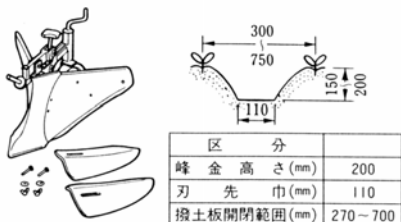
■付属品

- ・ 工具(プラグレンチ・レンチハンドル・両ロスパナ(14×12)各1)
- ・ 取扱説明書、保証書一式

■アタッチメント(別売品) *取付方法はP20を参照ください。

●アポロ培土器

用途…畦立、培土作業



7. 始動と停止のしかた

参考:

- ・ 製品出荷時、燃料以外のオイルは全て注油済みとなっておりますが、ご使用前には指定の場所に指定のオイルが注油されているか確認してください。
- ・ オイルの点検は、P.14~16 をお読みください。
- ・ 本機貼付のエンジン始動要領をよくお読みください。

⚠ 警告

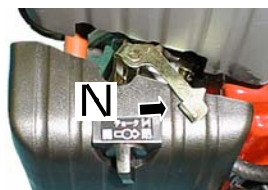
- ・ 排気ガスには有毒な一酸化炭素が含まれています。屋内や換気の悪い場所ではエンジンを始動させないでください。
- ・ エンジン始動時は、本機をしっかり押さえ、ローターの前には立たないでください。

■始動のしかた

①エンジンスイッチを「ON」位置にしてください。

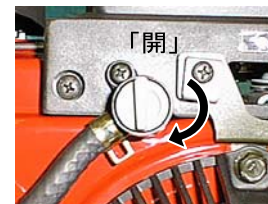



②寒いとき、エンジンが冷えているときには、チョークレバーを「始動」Nの位置にあわせませます。



・ エンジンが暖まっているときには操作不要です。

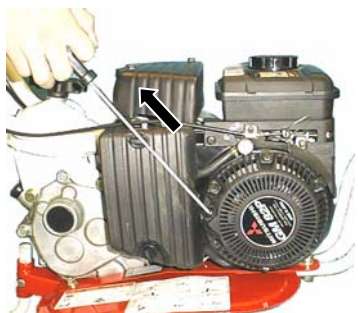
③燃料コックを「開」位置にしてください。



④スロットルレバーを「」位置にしてください。



7. 始動と停止のしかた



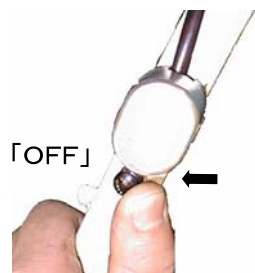
⑤本機が動かないようにハンドルをしっかりと押えてリコイルスタータを勢いよく引いてください。

参考：

- ・リコイルスタータの全長を確認した後、全長の8割くらいで始動するようにしてください。全部を引いてかけると、ロープが切れる恐れがあります。
- ・エンジン運転中はリコイルスタータを引かないでください。異音が発生し、エンジンに悪影響を与える原因となります。

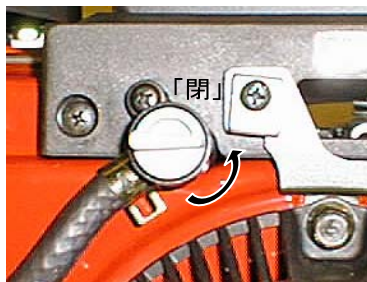


⑥チョークレバーを徐々に「運転」方向に戻し、30秒程度「低速」側で暖機運転を行ってください。



■停止のしかた

⑦エンジンスイッチを「OFF」位置にしてエンジンを停止します。



⑧最後に燃料コックを「閉」位置にしてください。

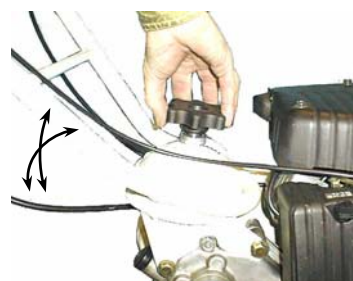
▲ 警告

ダッシング…ローターの回転により本機が前方向に飛び出そうとするすこと。特に固い圃場や石等異物の多い圃場で起き易い。

8. 運転操作のしかた

▲ 警告


- ・作業中は、進行方向に人や動物がいないことを確認してください。
- ・エンジン運転中は、ローターに触れないでください。
- ・石や異物がローターに絡まったり、草等が絡まったりしてローターの回転が止まったときは、必ずエンジンを停止してこれらの物を取り除いてください。エンジンが回っているときにこれらの物を取り除くと、不意にローターが回りだし大変危険です。
- ・作業中、本機が前方に飛び出しそうになった場合には、主クラッチレバーから手を離して本機を停止させてください。作業中のダッシングには十分注意してください。



①作業者の体格及び作業状態に応じてハンドル上下、左右位置及び抵抗棒の位置を調整してください。(P.8 参照)

②エンジンを始動してください。(P.10 参照)

③移動輪を抵抗棒より取り外してください。

④スロットルレバーを徐々に「」側へ倒してエンジンの回転を上げ、主クラッチレバーをハンドルと一緒に握ると作業を開始します。

⑤主クラッチレバーから手を離すと作業を停止します。しばらく低速側でエンジンを冷やした後停止してください。(P.8 参照)



参考：



- ・ハンドルを両手でしっかりと握り、移動が容易な姿勢で作業をしてください。
- ・エンジン回転を中速程度にし、ハンドルを下方に押し下げて、抵抗棒にかかる抵抗を加減しながら耕うんしていきます。
- ・ハンドルを下方に押し下げすぎると、ローターはその場で回転を続け、耕深が深くなります。逆に押し方が足りないと、耕うんすることなく、本機は前方に飛び跳ねます。

9. 点検と整備

お買い上げいただきました本機をいつまでも調子よく保つために定期点検を行って下さい。

▲ 警告

・点検、整備は平坦な場所で必ずエンジンを停止して行ってください。

点検時間 点検項目	作業前 点検	シーズン 前半	25 時間毎	50 時間毎	100 時間毎
ローター	○				
エンジンオイル	○			○(初回 10H)	
エアクリーナ	○	○※1(清掃)			
点火プラグ			○(清掃)		
燃料チューブ		2 年毎※2			
ミッションオイル			○(初回)		○
耕うん爪			○※3		

※1：ほこりの多い作業の場合、1 回の作業毎に清掃してください。

※2：これらの項目は適切な工具と整備技術を必要とします。

※3：点検し摩耗していれば交換してください。

■ローター

▲ 注意

・ローターの取付、交換の際には、ローターの爪先にボロ布等を巻き付け、手袋を着用してください。又耕うん爪はオーレック純正オリジナルフレンチ爪とご指名ください。

- ・ローターは 2 分割で、耕うん幅を調整できます。(550/300mm)
- ・耕うん爪の損傷、曲がりを点検し、異常があれば交換してください。
- ・ローターの固定ピン、R ピンに脱落、変形がないか点検し、必要であれば新しいピンと交換してください。R ピンを外し、固定ピンを抜くとローターは外れます。
- ・組み付ける際は、ローターの向きに注意して元の状態に組み付けてください。プライヤ等で R ピンをつかみ、固定ピンの穴に押し込みます。
- ・部分的な交換は行わず、耕うん爪は全部を一度に交換してください。
- ・耕うん爪は交換 1~2 時間使用後再度爪取り付けボルトの増し締めをしてください。

9. 点検と整備

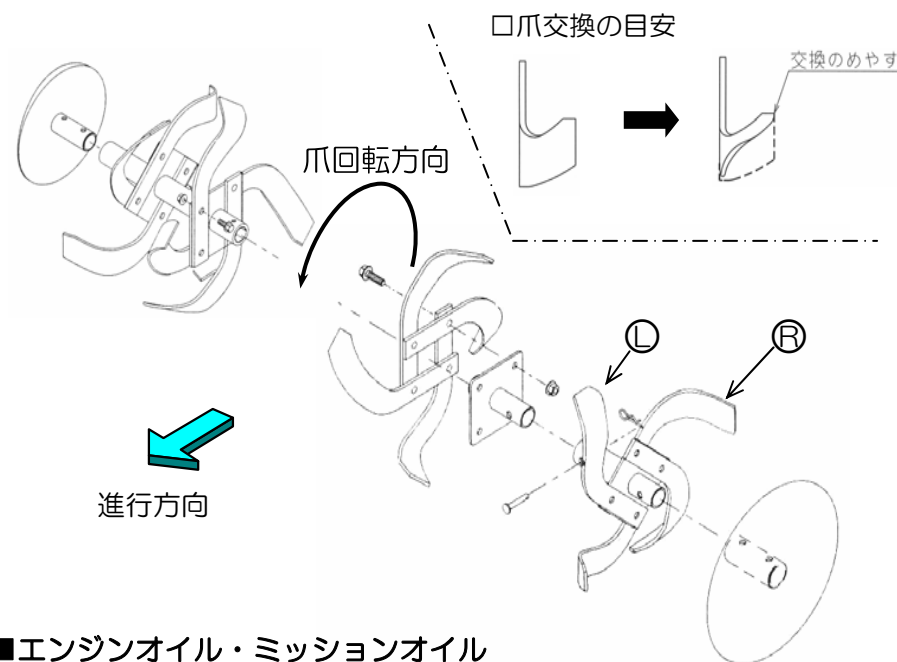
耕うん爪（フレンチ爪）交換のめやす

●耕うん爪が下図のようになったら交換してください。

耕うん爪の交換は、同じ向きの爪を一本ずつ交換して行ってください。

もし、途中で取り付け方が解らなくなった場合には、下図を参考に正しく取り付けてください。耕うん爪には曲がり方向によってⒶ、Ⓑの区別があります。爪の曲がり方向と爪の回転方向に注意して取り付けてください。

参考：耕うん幅に関わらず、ローターの外側には必ず、ロータリ皿を取り付けてください。



■エンジンオイル・ミッションオイル

▲ 注意

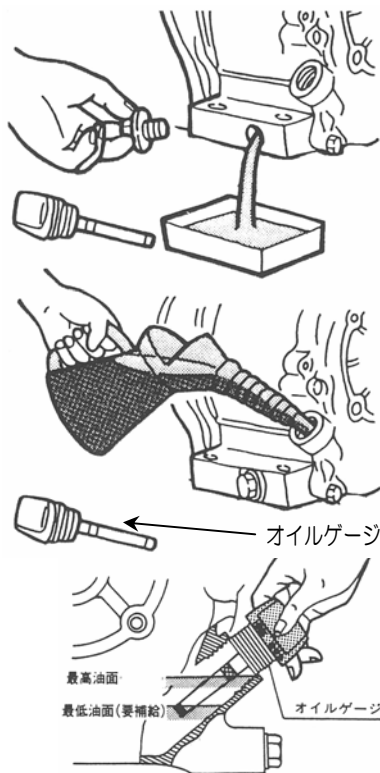
・エンジン停止直後は本体各部の温度や油温が高くなっています。十分に冷えてから(5分以上放置した後)オイルの点検・交換を行ってください。

参考:

・オイルが汚れていると本機の寿命を著しく縮めます。各オイルの交換時期、オイル容量を守りましょう。

9. 点検と整備

エンジンオイル



《点検》

- ①毎日、もしくは8時間毎にエンジンを水平にしてオイルの量・質を点検してください。
- ②給油キャップがオイルゲージを兼用しています。
- ③オイルゲージの上と下の目盛線の間オイルが無ければエンジンオイルを補給してください。

《交換》

- ①排油を受ける容器を準備し、給油キャップを外し、エンジン下部の排油栓(ドレンプラグ)を取り外し、この中にオイルを排出します。
- ②排油栓を取り付け、新しいエンジンオイルを規定量まで給油した後、給油キャップを締め付けます。

ミッションオイル



《交換》

- ①廃油を受ける容器を準備し、注油栓を取り外した後、ミッションケース下部の排油栓(ドレンプラグ)を外して古いオイルを排出してください。
- ②排油栓を取り付け、新しいミッションオイルを規定量注油した後、注油栓を取り付けてください。

参考：特に冬期においてはオイルの粘性が高く、注排出されにくくなります。このような場合には、事前にオイルを温めておくことで作業がやり易くなります。

9. 点検と整備

□エンジンオイル《交換時期》

初回：1ヶ月又は10時間運転後 以降：6ヶ月毎又は50時間運転毎の早い方。

《推奨オイルと量》

API 分類 SE, SF, 級相当 SAE10W-30, 0.4ℓ

□ミッションオイル《交換時期》

初回：25時間運転後 以降：6ヶ月毎又は100時間運転毎の早い方。

《推奨オイルと量》

#90、1.0ℓ

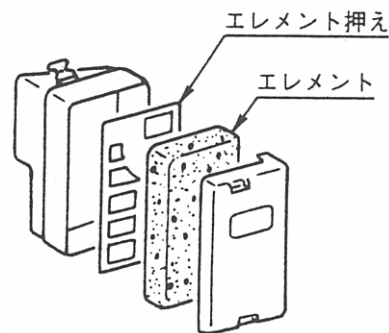
参考：

- ・交換後の廃油は、適切な処置をしてください。
- ・オイルは使用しなくても劣化します。定期的に点検・交換してください。

■エアクリーナ

▲ 警告

- ・洗い油には引火性の低い灯油を使用してください。
- ・清掃は換気のよい場所で行ってください。



- ①上下2ヶ所のノブボルトを緩めてエアクリーナカバーを取り外し、ホコリやゴミを気化器側に入れないように注意深くエレメントを取り外してください。
- ②エレメントを洗い油又は水で薄めた中性洗剤で洗い、よく絞って乾かしてください。
- ③エレメントを新しいエンジンオイルに浸した後、固く絞ってください。
- ④エレメントを元通りに取り付け、カバーを元通りに取り付けしてください。

《清掃時期》

3ヶ月毎又は25時間運転毎、ほこりの多い場合は10時間毎又は毎日。

9. 点検と整備

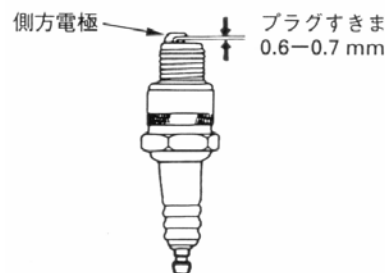
参考:

- ・エアクリーナを取り外したままエンジンを始動させないでください。エンジンが早く摩耗する原因になります。

■点火プラグ

▲ 注意

- ・エンジン停止直後のマフラや点火プラグ等は非常に熱くなっています。やけどをしないように、作業はエンジンが冷えてから行ってください。



プラグ隙間：0.6～0.7mm
指定プラグは P. 9 仕様参照

《清掃》

- ①点火プラグキャップを外して、プラグレンチで点火プラグを取り外してください。
- ②汚れている場合はワイヤブラシ等で清掃してください。

《点検・調整》

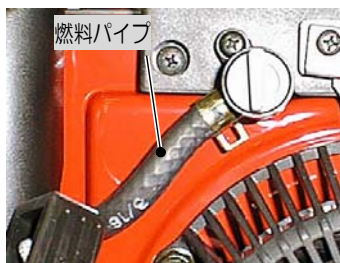
- ③プラグの隙間を点検し、側方電極を曲げてプラグ隙間を下記寸法に調整してください。
- ④取付はまず指で軽くねじ込み、付属のプラグレンチを使って確実に締め付けてください。
- ⑤プラグキャップを取り付けます。

《点検》

燃料パイプに劣化、ひび割れ、燃料漏れがないか確認してください。異常がある場合は交換が必要です。

《交換時期》

3 年毎



9. 点検と整備

■燃料フィルタ

▲ 危険

- ・ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こす危険があります。換気、火気に十分注意してください。



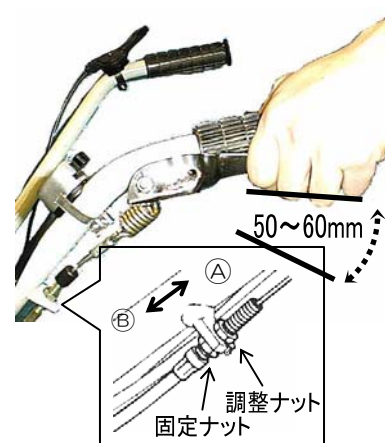
当エンジンは、燃料コックにストレナーは装着されていません。

参考：

給油は必ず、燃料給油口内の燃料ストレナーを通して行ってください。さもないと水分その他異物の混入により、エンジン回転不調の原因となります。

《点検・清掃時期》燃料給油時毎にストレナー内に堆積した異物を清掃する。

■Vベルト・ワイヤ



- ①主クラッチレバーを「㊸」から「㊹」位置へゆっくりと移動させていったときに、50～60 mm 程度のところで駆動が繋がれば（ローターが回り出せば）ベルトの張りは正常です。
- ②上記の数値以上で駆動がつながる場合には、主クラッチワイヤの調整ナットを㊸方向に移動させ、ベルトの張りを調整してください。（以下でつながる場合は㊹方向へ）
- ③調整後、固定ナットを確実に締め付けてください。

参考：Vベルトを交換した場合にはベルト押えの調整も行ってください。

目安として、主クラッチレバーが「㊸」位置のとき、ベルト押えがベルトを軽く押え、ベルトがエンジンプーリの溝より軽く浮き上がる位置でセットします。

《ベルトサイズと点検・調整時期》

ベルトサイズ：LA35×1 本

調整：初回 2～3 使用時間毎 以降 50 使用時間毎

10. 保管と運搬

■保管

長期間運転しない場合は、以下の手入れを行って下さい。

- ・燃料タンク内の燃料を別容器に移し、キャブレタフロート室のスクリュを緩め、フロート内部の燃料を排出した後、スクリュを締めます。
- ・エンジンを始動させ、自然にエンジンが停止するまで待ちます。
- ・各部を清掃し、エンジンオイルを交換してください。(以上、前項参照)
- ・燃料コックを「閉」位置にして、エンジン及び本体全体が十分冷えている事を確認した後、乾燥した場所で子供の手の届かない所、又は錠のかかる場所でカバーをかけて保管してください。

■運搬

●持ち運び

- ・本機を運搬する場合は、万一の場合に備え、燃料タンク内の燃料は抜き取ってください。

●移動

- ①本機を移動する場合には、抵抗棒の先端に本機付属の移動輪を取り付け、固定ピンとRピンとで固定します。
- ②ハンドルを下方に押し、ローター先端を地表から浮かすようにしながら移動してください。

●車載

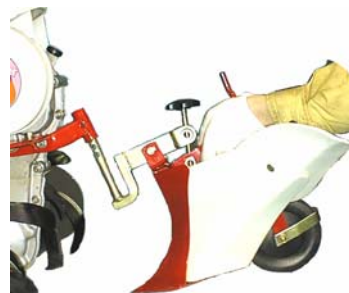
- ・運搬に利用する自動車は荷台に天井のないトラックを使用してください。
- ・ブリッジを使用するか、2人で抱えるかしてトラックの荷台へ積み込んでください。降ろす場合も同様にします。
- ・荷台の上で本機が動き出さないよう、丈夫なロープでしっかりと本機を固定してください。

▲ 注意

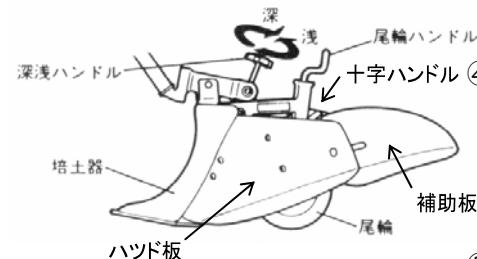
積み下ろしにブリッジを使用する場合には、荷台の高さの3.5倍以上のもので、本機の重量+作業者の体重の総和に十分絶えうるものを使用してください。スリップしないように表面処理が施してあるもの。

11. アタッチメント(別売品)の使用方法

■アポロ培土器…畝立、培土作業



- ①抵抗棒を外し、培土器をセットしてください。
- ②深浅ハンドルを回し、培土器底板が地面と水平になるように調整してください。
- ③畝が浅い場合には深浅ハンドルを左に、深すぎる場合には右に回し、所要の深さに調整してください。



- ④畝幅は、培土器の十字ハンドルを緩め、ハツド板の開閉で調整します。又、蝶ナットを緩め、補助板を前後に動かしても調整できます。
- ⑤調整位置決定後、尾輪が地面に当たる位置に尾輪ハンドルを調整してください。



参考；

培土器を使用する圃場は事前に十分に耕しておいてください。未耕地で使用すると、作業が出来ないばかりでなく、本機各部に負担がかかり、故障等の原因となります。

12. 故障かな?と思ったら

- 作業中、異常を感じたら、下記のトラブルシューティングに従い、まずご自分で点検を行って下さい。それでも尚不調が解消しない場合には、むやみにご自分で分解しないでお買いあげの販売店へ修理をお申し出ください。

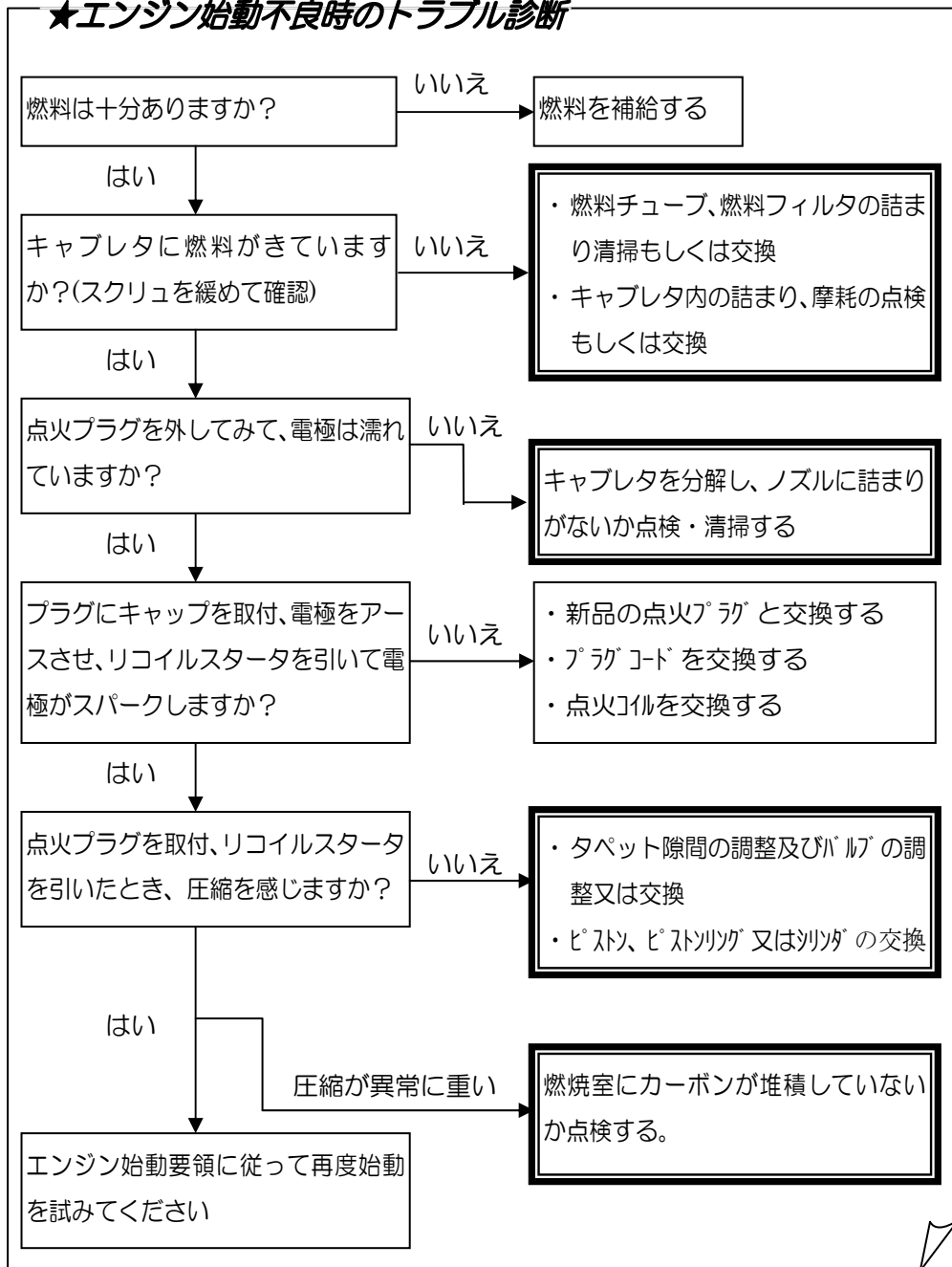
参考：



で囲った部分の点検・交換作業には、専用の工具・技術が必要となりますのでご自分で行わず、製品お買い上げの販売店にご相談ください。

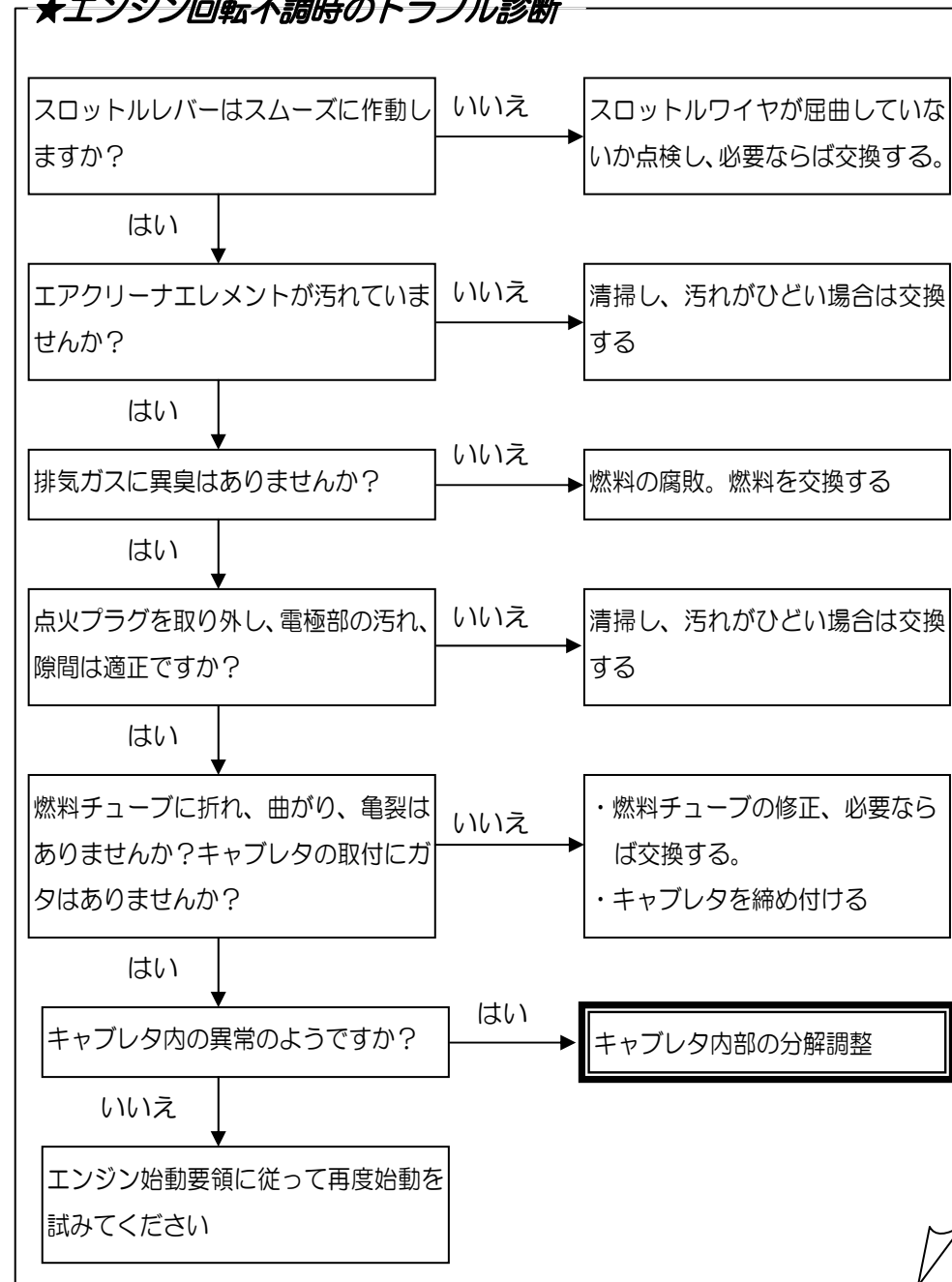
12. 故障かな?と思ったら

★エンジン始動不良時のトラブル診断



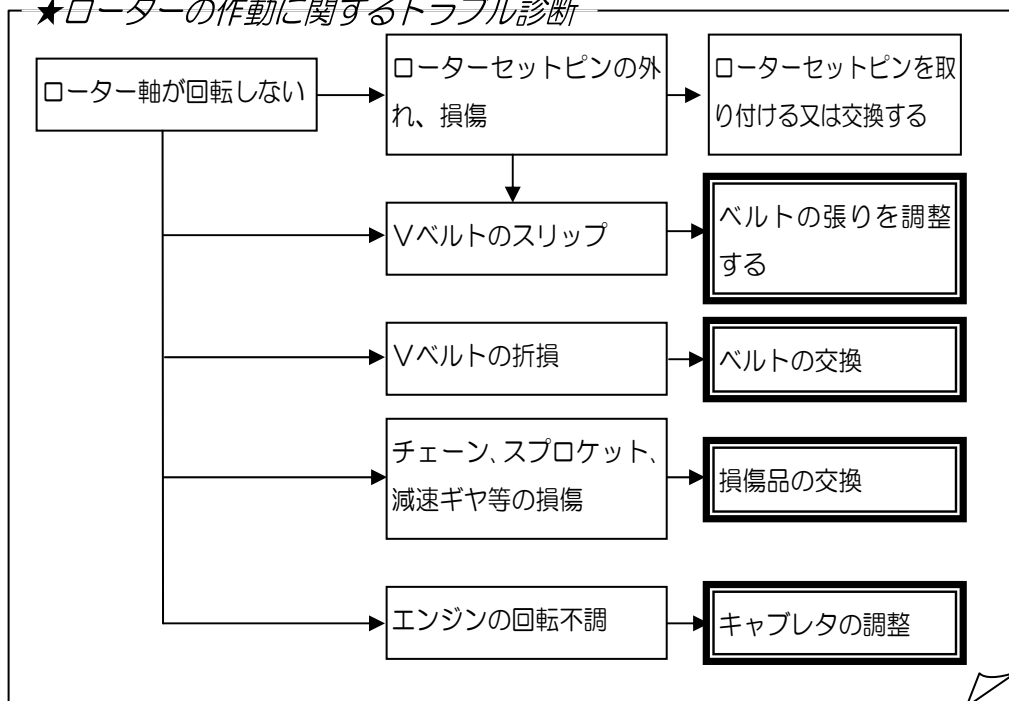
12. 故障かな?と思ったら

★エンジン回転不調時のトラブル診断

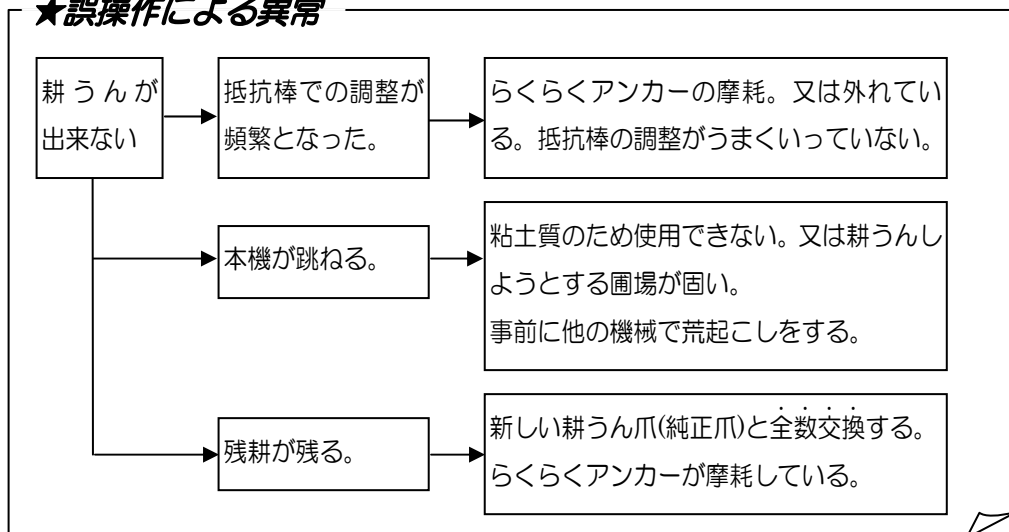


12. 故障かな?と思ったら

★ローターの作動に関するトラブル診断



★誤操作による異常



13. アタッチメントと補用部品

■オプション(用途については本書 19~20 頁をご参照ください。)

名 称	品 番	備 考
アポロ培土器	0013-80130	

■本機部品&消耗品

名 称	品 番	備 考
耕うん爪セット	0013-5100	L×8,R×8
爪取付ボルト・ナット組	0001-71000	16set/台必要
固定ピン	0009-70300	6ヶ/台必要
Rピン	89-2131-080002	6ヶ/台必要
ロータリ皿	0013-50300	2ヶ/台
ローターASY	0013-52000	耕うん部一式
Vベルト	89-6122-003500	LA35
スロットルワイヤ	0013-70500	レバー付
主クラッチワイヤ	0013-70100	

※アタッチメント、補用部品の購入は、本体を購入された販売店にご注文してください。